

# 平成30年度「学校評価アンケート」結果と改善策

秋田県立仁賀保高等学校

## 1 学校評価の目的

- (1) 本校の教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図る。
- (2) 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民の方々から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進める。

## 2 学校評価アンケートの実施

	調査期日	回収率
保護者	12月13日～18日	97.8%(267/273名)
生徒	12月18日	100.0%(273/273名)
教職員	12月13日～20日	100.0%(29/29名)

## 3 学校評価の公表方法

- (1) PTA評議員・運営委員への配付と説明
- (2) 学校評議員への配付と説明
- (3) 保護者への配付と学校HPへの掲載

## 4 結果の概要

### (1) 保護者アンケート(全18項目)から

A: と思う B: どちらかといえばと思う C: あまりそうは思わない D: そうは思わない E: わからない

	H28	H29	H30
全18項目のAとBの合計平均	66.8%	71.0%	65.9%
① 良い評価が75%以上の項目(AとBの合計値)	3	8	2
No.14 インターンシップや職場見学	H29 (77.5%)	H30 (76.8%)	伸び率 -0.7%
No.18 本校入学に満足	(83.6%)	(75.7%)	-7.9%
② 課題となる項目(CとDの合計値が30%以上)	3	2	3
No. 3 落ち着いた学習環境	(26.7%)	(37.8%)	+11.1%
No. 5 PTA活動への参加	(52.8%)	(55.1%)	+2.3%
No.16 生徒会・部活動の充実	(30.6%)	(49.8%)	+19.2%
③ 改善策			
・No. 3 ベル即授業の徹底と授業改善により生徒の学習意欲を喚起する。			
・No. 5 早い時期の呼びかけと活動の内容を会報等を通じて保護者に伝える。			
・No.16 部活動を精選し、各部活動の魅力を伝えることで入部者を増やし、活性化に繋げていく。			

(2)生徒アンケート(全20項目)から

A: そう思う B: どちらかといえばそう思う C: あまりそうは思わない D: そうは思わない

	H28	H29	H30
全20項目のAとBの合計平均	77.8%	75.5%	69.1%
①昨年より上昇した項目数(AとBの合計値)	4	3	0
②伸び率が10%以上の項目(AとBの合計値)	0	0	0
③課題となる項目(CとDの合計値が30%以上)	4	4	8
	H29	H30	伸び率
No. 2 施設・設備	(67.1%	→ 71.4%)	+4.3%
No. 3 清掃	(59.2%	→ 65.9%)	+6.7%
No. 4 落ち着いた学習環境	(26.5%	→ 36.7%)	+10.2%
No. 5 朝学習	(28.1%	→ 31.5%)	+3.4%
No. 16 生徒会・学校行事	(22.6%	→ 30.4%)	+7.8%
No. 17 部活動の充実	(38.7%	→ 51.0%)	+12.3%
No. 19 他校や地域との交流	(49.3%	→ 58.6%)	+9.3%
No. 20 本校に入学して良かった	(20.9%	→ 30.8%)	+9.9%
③改善策			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・No. 2、No. 3 築40年以上経ており、校舎の老朽化は著しい。破損箇所の修繕や整備など積極的に対応する。</li> <li>・No. 4 ベル即授業の徹底と授業改善により生徒の学習意欲を喚起する。</li> <li>・No. 5 教材の精選と工夫や定期的な確認テストを実施する。</li> <li>・No. 16 積極的に地域と交流し、地域の活性化のため貢献する意識を育てていく。</li> <li>・No. 17 部活動を精選し、各部活動の魅力を伝えることで入部者を増やし、活性化に繋げていく。</li> <li>・No. 19 特に部活動等に入っていない生徒に対して、地域のボランティア活動への参加を促す。</li> <li>・No. 20 学習活動や部活動、特別活動において生徒が学校生活に満足感を得られるよう取り組む。</li> </ul>			

### (3)教職員アンケート(全33項目)から

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

	H28	H29	H30
全33項目のAとBの合計平均	89.7%	86.5%	88.6%
①昨年より上昇した項目数(AとBの合計値)	1	6	17
②伸び率が10%以上の項目(AとBの合計値)	0	1	4
③課題となる項目(CとDの合計値が20%以上)	4	7	8
No. 3 各分掌や各学年の連携	(16.6% → 20.7%)	+4.1%	
No. 6 実態に即した教育課程	(13.3% → 20.7%)	+7.4%	
No. 8 定期的な教科内情報交換	(36.7% → 24.1%)	-12.6%	
No. 15 基本的な生活習慣	(17.2% → 20.7%)	+3.5%	
No. 17 校則やルールについて	(23.4% → 20.6%)	-2.8%	
No. 21 朝学習について	(21.4% → 20.6%)	-0.8%	
No. 24 部活動の活性化	(60.0% → 48.3%)	-11.7%	
No. 25 ボランティア活動	(13.3% → 20.7%)	+7.4%	
④改善策			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・No. 3 分掌間や学年間の連携を図るため、グループボードを活用する。</li> <li>・No. 6 目指す生徒像の共通理解を図り、学習指導要領改訂に向けて新教育課程への方向性を模索する。</li> <li>・No. 8 教科主任は、定期的に科会を開催し各科目の進捗の確認や教科についての問題点について話し合う機会を設ける。</li> <li>・No. 15、17 生徒指導部と学年部が連携を図り、学年間の指導に相違がないよう配慮する。</li> <li>・No. 21 教材の精選と工夫や定期的な確認テストを実施する。</li> <li>・No. 24 部活動を精選し、各部活動の魅力を伝えることで入部者を増やし、活性化に繋げていく。</li> <li>・No. 25 特に部活動等に入っていない生徒に対して、地域のボランティア活動への参加を促す。</li> </ul>			

### 5 学校評価会議の開催

2月12日(火)に学校評価会議を開催し、課題等について話し合う機会を設けた。  
事前に全体協議題を設定し、分掌部会と学年部会を実施し、職員全員で話し合い自分自身のこととして意識し課題解決に繋がるようにした。

### 6 学校評議委員会・学校関係者評価委員会の開催

2月13日(水)に学校評議委員会及び学校関係者評価委員会を開催した。学校評議員4名・PTA会長、学校からは校長・教頭・事務長他8名の各分掌主任が参加した。各評議委員の皆様から質疑があり、最後にお一人ずつご提言をいただき学校関係者としての評価とした。